

県指定有形文化財

木造 薬師如来坐像

脇侍日光・月光菩薩立像

十二神将立像

(15軀)

所 蔵 等持院

所 在 栃窪 766 薬師堂

木喰（もくじき）作 一木造

像高 薬師像 35.5cm（総高 74.5cm） 日光像 38.8cm 月光像 40.5cm

十二神将像 54～63cm

背面に「安永九子（1780）十二月八日四ッ時」、「日本廻国行者行道 同弟子白道」などの墨書銘があります。

木喰は、享保3年（1718）、山梨県に生まれました。22歳のとき、神奈川県伊勢原市の大山不動尊に参籠して仏門に入り、各地を遍歴しました。45歳のとき、茨城県羅漢寺の木喰観海上人について木喰戒を受け、以後「行道」と名乗りました。

木喰戒とは、一定の修行期間、米・麦などの五穀を避け、木の実などを食しながら、山野に入って修行に励むきびしい戒律をいいます。

木喰は、56歳のとき、千体の仏像を刻むことを発願し、日本巡国の旅に出ました。文化7年（1810）に93歳で亡くなるまで、北海道から九州に至る全国各地に個性ある木彫仏を残しました。栃窪には、63歳のとき、5か月滞在しています。木喰の仏像はひと口に微笑仏と形容されますが、ここの仏像は初期の作なのでその特徴が比較的少ないといわれています。

